

美唄市人口ビジョン（2019 改訂版）【概要版】

本市の人口の現状と長期的な将来（2060 年）の展望をまとめたものです。

【課題と現状】

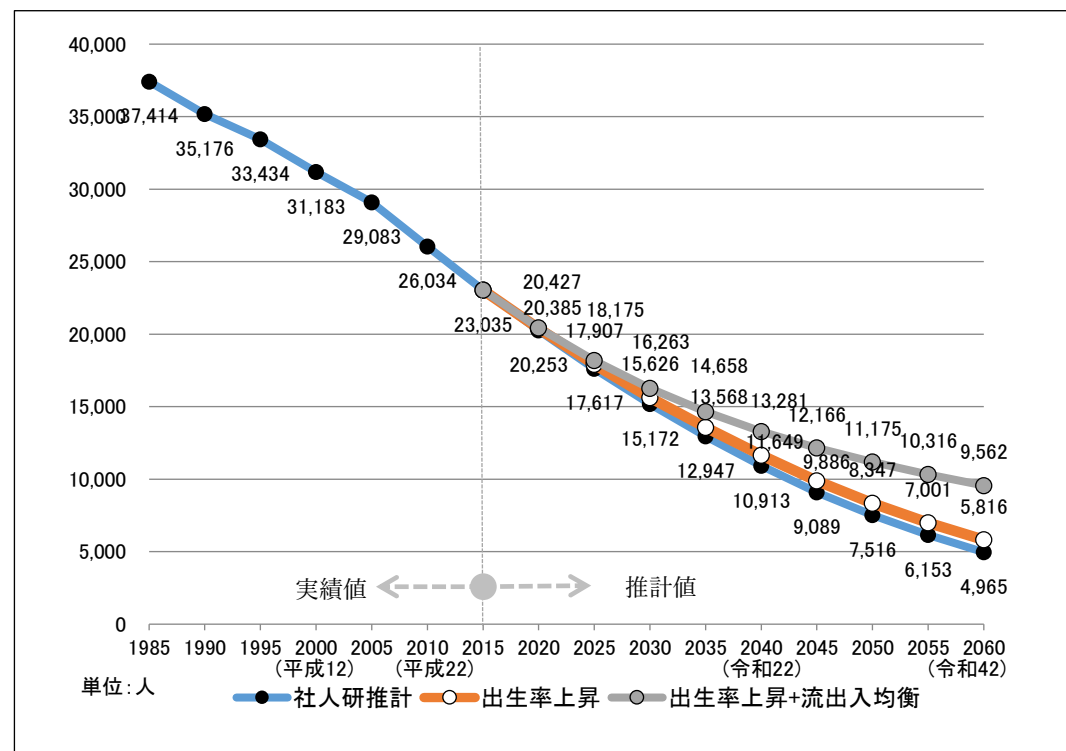
自然動態（出生・死亡）

- ・出生数は年々減少傾向にあり、平成 27 年度以降は年 100 人を割っている。
- ・死亡数は、高齢者人口の増加とともに増加傾向にあり、平成 27 年度以降は平成 29 年度を除き年 400 人を超えている。
- ・死亡数が出生数を上回る状況が続いており、さらに出生数の減少及び死亡者数の増加から自然減少数が増加傾向にある。
- ・平成 20～24 年の合計特殊出生率は 1.19。北海道（1.25）や全国（1.39）と比較し、低い水準にある。

社会動態（転入・転出）

- ・転出数、転入数はいずれも減少傾向にあるが、いずれの年度でも転出数が転入数を上回っている。
- ・2018 年度(平成 30 年度)は転出数 747 人に対し、転入数が 489 人で差し引き転出超過数が 258 人となっている。
- ・平成 27 年国勢調査における前回調査からの移動状況で最も本市からの転出超過数が多いのが札幌市で 317 人、次いで岩見沢市で 286 人、江別市で 119 人となっているほか、ほとんどの自治体へ転出超過となっている。
- ・本市への転入超過数が最も多いのが芦別市で 16 人、次いで奈井江町で 15 人、函館市が 14 人となっている。
- ・転出入アンケートによる移動の理由で最も多いのが「就職・転職」次いで「転勤」となっており、就業関連の移動が転入転出ともに全体の 50%強となっている。
- ・次いで「家族・親族との同居」、「結婚」となっている。

【美唄市の人口の将来展望】



①社人研推計

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計と同様とした。

②出生率上昇

①+2030 年(令和 12 年)に合計特殊出生率(TFR)が 1.80、2040 年(令和 22 年)に同じく 2.07（社人研が算出した「人口置換水準」）となるよう逡増するものとして推計した（2040 年(令和 22 年)以降の TFR は 2.07 を維持）

③出生率上昇+流出入均衡

②+2040 年(令和 22 年)の段階で本市全体の流出入(社会増減)が均衡するものとして推計した(各年齢階層のプラス幅合計とマイナス幅合計が 2040 年(令和 22 年)時点で合致)。